

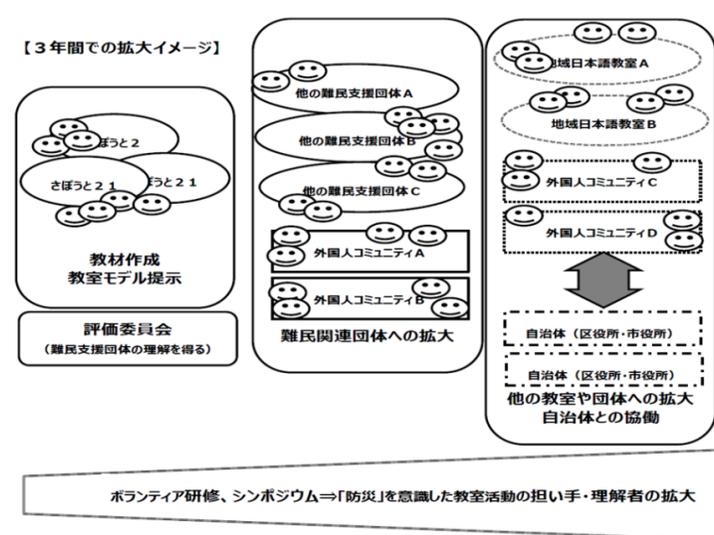
委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名: 社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

1. 事業の概要

事業名称	外国人住民と日本人住民が本気で「防災」に取り組むための日本語教育展開事業
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>(当団体の主たる支援対象者である「難民」の場合、国での迫害を逃れ、他国に保護を求めた方々であり、まずは「安全な環境で安心して日々暮らすこと」が日本に在留する目的である。彼らの場合、自国政府からの保護や支援は期待できない。また、難民的背景をもたない同国出身者と不用意に接触することはできないという事情もあり、地域との関わりがもちにくい。そうした特異な事情から、以下は「日本語教育活動に関する地域の実情・課題」というより「難民的背景をもつ方々」についての日本語教育活動に関する実情・課題となる。)</p> <p>令和2年の難民認定者は「イエメン」「中国」各11人、アフガニスタン5人、シリア4人等47人であった。強固な同国人(同民族)同士のコミュニティをもたない難民が増加してきている。当団体も、イエメン、アフガニスタン、シリア、コンゴ民主共和国、エチオピア等、属するコミュニティをもたず、日本への定住にかなりの困難を感じている難民の方々の関わりが増えている。彼らにとっては、まずは「安全で安心な」日々の暮らしを確保することが最優先事項であり、そのために日本語学習へのニーズも非常に高い。</p> <p>そうした状況を反映して、ここ数年、難民支援団体それぞれが、関わる難民の方々のニーズを反映した日本語教育を積極的に行うようになってきた。団体間での個別の情報共有も活発に行われるようになってきている。</p> <p>また一方、「第三国定住難民」に関しては、対象となる難民の基準を緩和し、年30人程度にとどまっている受け入れ人数を倍増する方向性が示されており、今後は、日本国内の様々な地域で「難民」を受け入れる状況になると予想される。</p> <p>当団体では以前より、難民の方々が「安全で安心な」毎日を送れるよう日本語教育がそれを支えて行くこと、日本語教室が単なる日本語学習の場であるだけでなく、彼らの「安全で安心な」日々の暮らしを担保する場として機能することの必要性を訴えてきた。難民の方々が多様化し、広範囲に定住するようになるにつれ、その必要性はさらに増してきている。実効性のある、具体的な方策を検討していかなければならない。</p> <p>これまで、その抱える困難の大きさや個人情報の保護の観点から、なかなか難民に対する日本語教育が、他の定住外国人に対する日本語教育に資する部分は少なかったように思われるが、より多様な外国人住民の定住化が進むであろう現状を鑑み、今後は、難民に対する日本語教育の実践が、地域日本語教室の活動に貢献できる可能性も高くなるだろうと考えられる。</p>
事業の目的	<p>【目的】 本事業の目的は、地域日本語教室を難民等外国人住民の「防災」日本語学習の拠点として位置づけ、「防災」に関する日本語学習をきっかけに、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等をつないだ日本語教育のネットワークの構築を進めていくことである。自助共助の意識を強くもった外国人住民・日本人住民が地域日本語教室で共に育っていくことを期待している。</p> <p>【今年度の目標】 ●令和元年度に作成した「本気で防災を学ぶ紙芝居型日本語教材」(以下「本気で防災日本語紙芝居」)の追加作成、普及を進める ●教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた地域日本語教室のモデルを提示する ●「防災」を教室活動に積極的に取り入れる意識をもった「担い手」を育成する ●「防災-外国人住民-日本語-日本語教室」の重要性を認識し、そのような視点から「地域日本語教室」の有用性を理解する人を増やす ●「本気で防災日本語紙芝居」の普及活動を通じて、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等のネットワークの構築を進める</p>
本事業の対象とする空白地域の状況	—

事業内容の概要	<p>当団体では、2012年以来、「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム(A)を受託し、とくに「生活力向上のワークショップ」、「日本語教室」において、「防災」に関する学びの場を数多く提供してきた。2019年度には同プログラム(B)を受託し、日本語教室を外国人住民の防災学習の拠点としてとらえた事業を開始した。「防災」については、より頻繁に学びの機会を得て、防災への意識を常に持続する必要性を感じている。より多くの外国人住民、日本人住民が「防災」について学び、考え、災害時に協力しあえる体制をつくっておく必要がある。</p> <p>また、当団体は先の文化庁事業を受託し、2013年以来、東京を中心とする多くの地域のボランティアを対象に、その資質向上を目指した講座を実施してきた。受講者の中には、講座受講をきっかけに地域日本語教室でのボランティアを始めた方もいれば、異なる教室の方々がつながり、情報の共有をはかったり、教室運営について相談しあったりするというゆるやかなネットワークが形成されてきている。この人的ネットワークは有効に活用できるのではないかと考えている。</p> <p>上記の状況をふまえ、2020年度に予定している事業の概要は以下の通りである。</p> <p>事業(1)「モノをつくる」 作成済の「本気で防災日本語紙芝居」の改訂、追加紙芝居の作成、Webページでの公開(募集案内では取組⑤)</p> <p>事業(2)「実践+モデルの提示」 「体験を通して学ぶ導入期日本語講座」(以下「日本語教室」)(同取組②)、「さぼうと21学習支援室」2か所(本事業対象外)において、「防災学習を積極的に教室活動に取り入れた日本語教室」の実践を進める。また、事業の普及のために、「出張型1日日本語教室」も実施する。 ○1: 毎回「本気で防災日本語紙芝居」を用いた10分学習を実施する ○2: 「生活力向上のためのワークショップ」(同取組②)において「防災センター訪問」のための事前学習、事後学習を行う ○3: 出張型「防災を学ぶ1日 日本語教室」(同取組②)を実施する</p> <p>事業(3) ネットワーク構築のための担い手の育成 「地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座」(以下「基礎講座」)(取組③、④)を行い、担い手を育成する ○1: 「活動基礎講座」全10講座のうち、とくに「やさしい日本語」の講座の中で、「外国人住民と防災」を取り上げる ○2: 「活動基礎講座」全10講座のうち、「地域での日本語教育の実践」に学ぶの回では、地域日本語教室の多様な活動を紹介し、教室の果たしうる役割を再考する(「防災」に注力した活動の実践を紹介する) ○3: 出張型「活動基礎講座」(全5講座)の中に「やさしい日本語」「防災に注力した日本語教室の活動紹介」を含め、理解者を増やすと同時に、発信をさらに広く進める。</p> 
事業の実施期間	令和元年5月～令和3年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

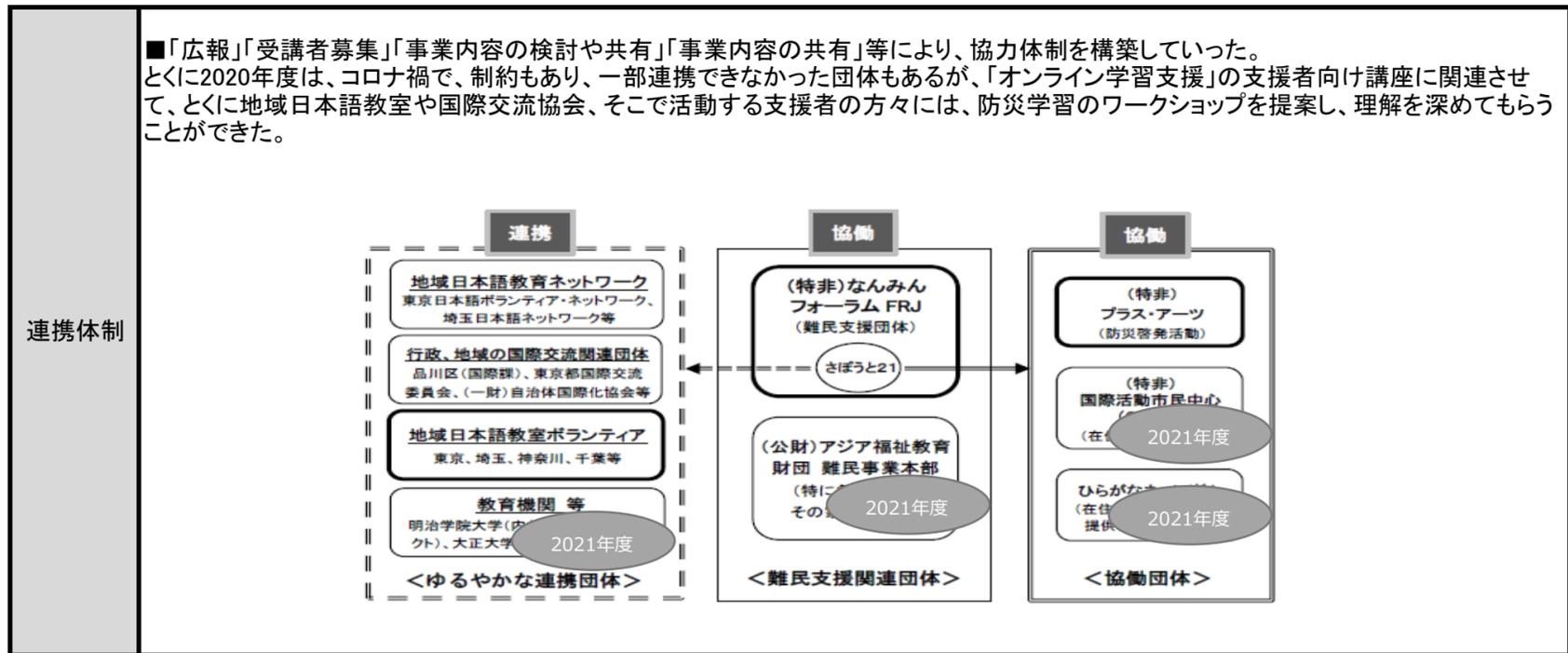
【運営委員】

1	小倉 文佳	(特非)プラス・アーツ・東京事務所長
2	高橋 敬子	(社福)さぼうと21・事務局長
3	田中 康予	早稲田大学院 日本語教育研究科 修士課程
4	矢崎 理恵	(公財)中国帰国者支援・交流センター他・日本語講師 (社福)さぼうと21・学習支援室コーディネーター
5	LIA CING LAM MANG	(公財)アジア福祉教育財団・難民事業本部・臨時職員

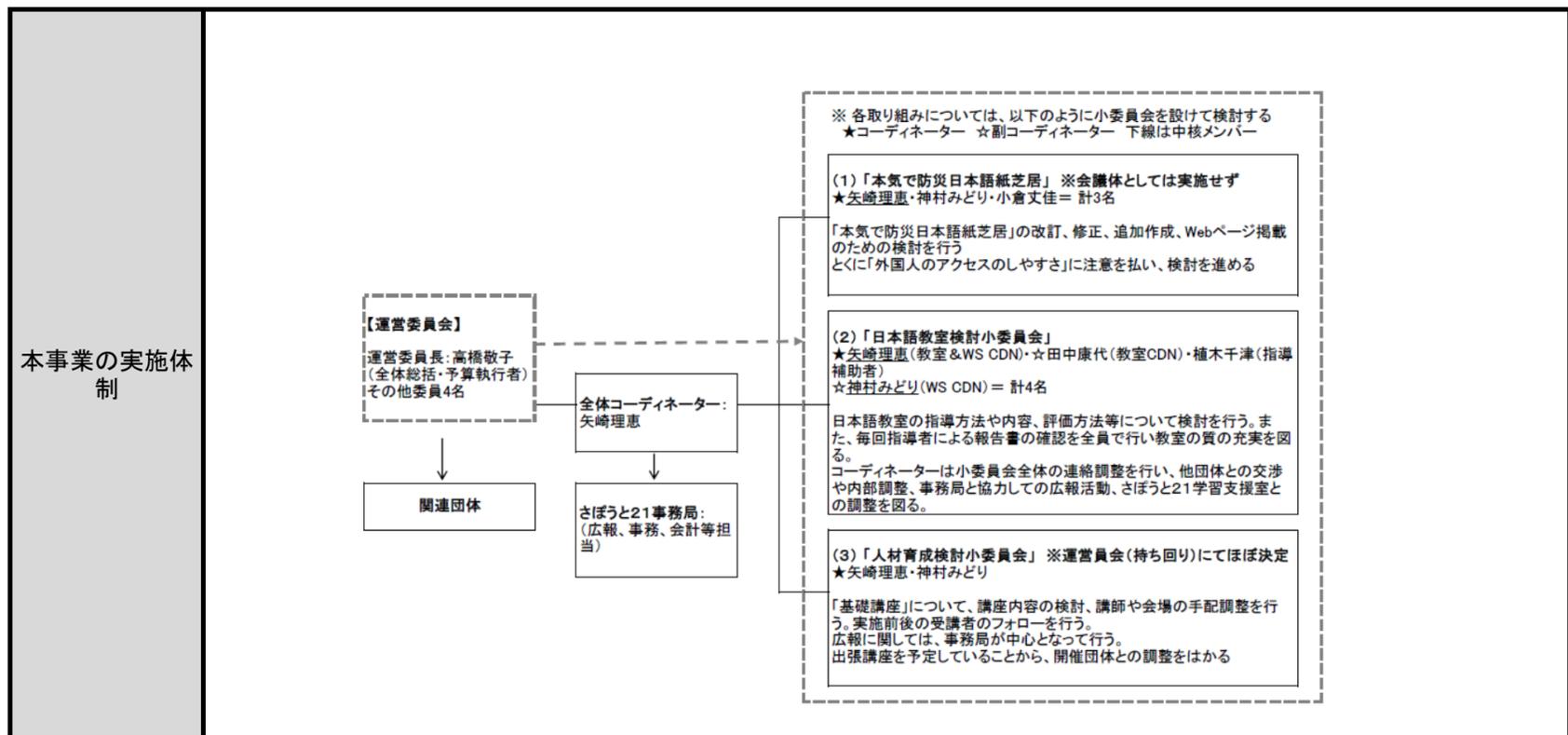
【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年5月17日 (日) ～6月18日(木)	—	オンラインにて実施	—	コロナ禍で会議実施が難しかったことから、コーディネーターより各委員にオンラインもしくは面談にて以下を報告、意見を仰ぐ 1 本年度実施予定の事業について 2 コロナ禍での事業実施について
2	令和3年3月17日 (水) 19:00～21:00	2時間	オンラインにて実施	小倉文佳、高橋敬子、 田中康予、矢崎理恵、 LIA CING LAM MANG	・R2年度事業実施報告 ・事業評価

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力



(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制



3. 各取組の報告

<取組1> 【実施期間:令和 2年 5月 26日~令和 3年 3月 15日】	
取組の名称	「本気で防災紙芝居型日本語教材」の追加作成
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域日本語教室が防災学習の拠点として機能するために必要な教材を改訂、追加作成、Web公開する ・「防災の専門家」と「日本語教育の専門家」「難民支援団体や外国人支援団体」が協働し、その連携を強める

取組の内容

1 外国人住民のための「本気で防災紙芝居型日本語教材」の作成

- 地域日本語教室で使いやすいよう、「毎回」「10分程度」「1回1項目」、「紙芝居型教材」を基本とした教材
- 1項目 A3カード(両面)×10テーマ作成
- 表面は、文字を少なくし、わかりやすいイラストで、印象に残ることを優先させた
- 裏面は、日常生活で日本語を使ってやりとりができる程度の外国人を想定して、やさしい日本語で表現することを心掛け、テキストは全てひらがなのルビをふった
- 「本気で防災紙芝居型日本語教材」(2019年度事業で作成)を実際に利用した方々からのフィードバックをもとに、改訂、追加作成の内容を、防災の専門家である(特非)プラス・アーツと検討した

- 扱った項目
 - <自分・家族を守る>
 - ①災害時の情報元を登録しておこう
 - ②災害時にどこに避難するか決めよう
 - ③ハザードマップで自宅や職場の場所が安全か調べよう
 - ④避難所がどんな所か知っておこう
 - ⑤避難所に持ちこむものを準備しよう
 - ⑥感染症対策をしよう
 - ⑦感染症対策グッズを備えよう
 - ⑧大雨の中の避難は服装に気をつけよう
 - <生活を守る>
 - ①ガスメーターの復帰方法を覚えよう
 - ②水を運ぶ時の工夫を知っておこう

※2019年度制作分と合わせると、合計30テーマを作成済。
 (内訳は次の通り。「自分・家族を守る」: 14テーマ、「生活を守る」: 14テーマ、「コミュニティを守る」: 2テーマ) □

【紙芝居型日本語教材】※以下は2020年度作成。
 <表>



<裏>



2 日本語教室を始め、さまざまな場で利用してもらえるよう当該教材をホームページに公開した

- 2019年度・2020年度制作分の防災紙芝居に加えて、その使い方を記したミニガイドも掲載し、効果的に使っていただけるようにした
 掲載先URL: <https://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/top-page/saigai/>
<https://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/top-page/sankagata-kouza/>

- 防災紙芝居に加えて、以下、当該事業の助成をもとに作成した防災に関する教材も同時に公開し、防災紙芝居普及のきっかけとなるようにした

- ①参加型講座・資料(防災): 地震ITSUMO講座 ~被災者から学んだ生活防災術
- ②参加型講座・資料(防災): 防災ワークショップ ~自宅の備え編
- ③参加型講座・資料(防災): 防災ワークショップ ~避難のための備え編

- 防災紙芝居をWeb公開するにあたり、多くの方にとってより見やすくアクセスしやすいつくりとすため、ホームページ編集に詳しい専門家の力を借りて実施した。今回、防災に関する教材ページが見やすく、アクセスしやすいものへと改訂できたため、以降も防災教材作成時は適宜追加していく

3 防災紙芝居の普及のため、支援者向けに講座を実施した

(特非)プラス・アーツに協力いただき、防災紙芝居を用いたオンライン防災ワークショップを体験していただく講座(オンライン・スキルアップ講座)を設けた。外国人向けの防災ワークショップを実演・体験してもらうことで、外国人住民への防災に関する学びの場の必要性を実感してもらった。
 日本語教室で活動するボランティアや地域の国際交流協会の職員が主な対象であった。

- ①2021年2月22日(月)10:00~12:00 参加者数: 19人
- ②2021年2月22日(月)19:00~21:00 参加者数: 17人
- ③2021年3月15日(月)19:00~21:00 参加者数: 8人

□ 空白地域を含む場合、空白地域での活動

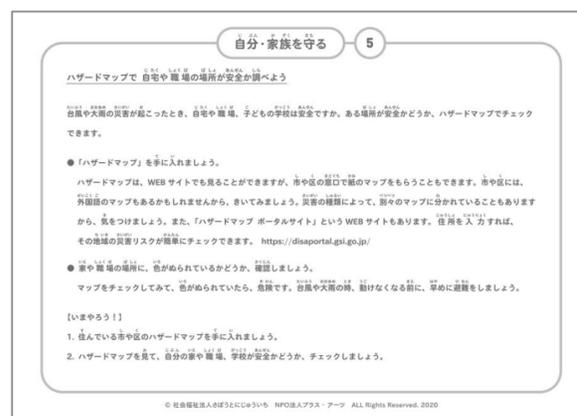
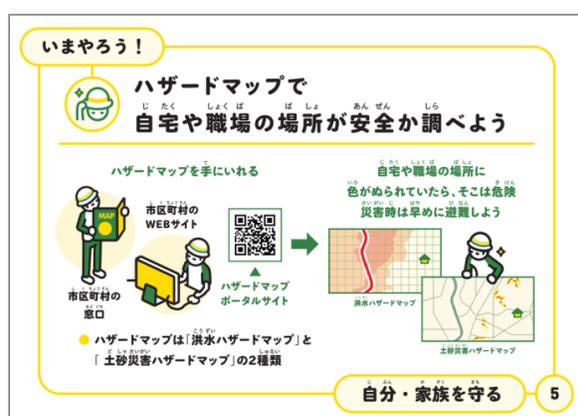
取組による体制整備	日本人住民にとっても外国人住民にとっても扱いやすい防災についての「日本語教材」が作成されたことにより、地域日本語教室の参加者が防災学習に取り組みやすくなった。今後さらに、防災の学びが有効に進み、「地域日本語教室の拠点的機能の充実」がはかられ、「防災をめぐる地域日本語教育のネットワークの構築」が大きく進むことが期待される。										
取組による日本語能力の向上	毎回教室で、同じテーマについて連続して学べる教材ができることで、「防災」についての日本語習得が進み、さらにそのテーマについて、日本人住民と外国人住民との間のやりとりが促進された。また、教室に通学ができない状況にある外国人住民も、「防災」という「必要情報」がわかりやすく提供されることで、日本語習得の意欲を大いに高めるであろう。										
参加対象者	—	参加者数 (内 外国人数)					— ※上記3で記した講座の参加者数は、取組3にて記載				
広報及び募集方法	作成した教材を当団体のホームページで公開することにより、普及をはかっている オンラインスキルアップ講座を通じ周知を進めた										
開催時間数	(総時間 時間) 教材をどのように利用するかで、要する時間数は変わる (例)10分×10回=100分～					(内訳 1回 10分 × 10 回)					
主な連携・協働先	(特非)プラス・アーツ										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
※該当する場合のみ											0
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

・(特非)プラス・アーツとの協働により教材作成を進める過程で、防災検定資格をもつ関係者や外国人住民の意見も聞きながら、紙芝居で扱うテーマ、掲載する情報についての検討を重ねた。裏面の日本語表現については、現役の日本語教師、日本語教育に従事していた方にも複数回にわたってチェックしてもらい、理解しやすい日本語表現にて記載した。

以下は、完成した教材の表面と裏面である。



(2) 目標の達成状況・成果

・予定していた10枚の紙芝居が完成した。今後の普及用に「データ」(1テーマごと、全データ通しで用意)を用意し、ホームページに公開することができた。教材等を掲載しているWebページも一部改訂することで、支援者も被支援者もより見やすくアクセスしやすいページとなっている。
公開先URL: <https://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/top-page/saigai/>

・昨年度作成済みの20枚に加えて10枚の紙芝居を追加し、分類分けを再検討した。支援者にも学習者にも、より分かりやすくなり、利用しやすくなった。

・(特非)プラス・アーツとの協働作業を通して、様々な防災活動の手法を学べたというだけでなく、プラス・アーツの方々に、外国人住民がどのような困難を抱えているのか、また、多少日本語ができる外国人の方々にとって、どのような日本語が難しいのかについてさらに理解を深めていただけた。防災に関する啓発活動は、日本人住民のみならず外国人住民向けにも必要な分野であるため、防災分野の専門家集団であるプラス・アーツの方々の日頃の活動(防災啓発活動)においても有効な協働となったと考える。

(3) 今後の改善点について

・何人かの方からは「そもそも文字を読もうとしない外国人も多い」との指摘を受けている。紙芝居の音声化を次年度以降で行い、より多くの外国人住民に紙芝居を知ってもらいたいと考えている。

・コロナ禍で、活動を中止している日本語教室も多いと聞く。「オンラインで使える教材」を求める声も多く、「防災紙芝居」、およびそれを利用したオンラインのワークショップなどの実施に力を入れていきたい。

<取組2-1> 【実施期間:令和 3年 1月 23日~令和 3年 3月 18日】			
取組の名称	難民のための参加型日本語教室の実施「体験を通して学ぶ導入期の日本語教室」		
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して学ぶ参加型の日本語教室への参加により、外国人住民(難民)が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるような気持ちをもてるようになること。最低限必要な生活上の行為が達成できるようになること ・日本語教室での学びを通して、外国人住民(難民)、先輩外国人住民、日本人住民が互いを尊重しあってコミュニケーションをとる楽しさを知り、日本社会の一員として共に暮らしていこうという意識をもてるようになること 		
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ●1 全体の構成 指導者、ボランティア参加者、学習者が体験を通して共に学ぶ日本語教室を実施した ○具体的な「体験」(コロナ禍で、当初の予定から変更した) 「料理」「防災」「ゴミ捨て」「アプリの利用」など ●2 教室の時間等 授業時間:毎週土曜日13:30-16:40・3時間/回、毎週火曜日・木曜日18時半~20時半 計60時間 ●3 1回の授業のイメージ(1回3時間) ①挨拶・日にちの確認・出欠 ②当日テーマに関連した語彙力のUP ③課題の提示・意識化 ④行動・体験を通じての課題達成有と振り返り ※文字学習(レベルに分かれて) ●4 本事業で作成した『本気で防災紙芝居型日本語教材』、文化庁委託事業により当団体が作成した教材を参考に、指導者作成の教材を利用した 		
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—	
取組による体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた、地域日本語教室のオンライン日本語学習のモデルを提示した ・教室活動の検討をする中で、日本語教師、難民支援団体、地域日本語教室、防災の専門家、先輩外国人住民、教室参加者の間で様々なやりとりを重ねた。防災学習をきっかけに、異なる分野に属する人々のゆるやかな連携体制をつくった 		
取組による日本語能力の向上	毎回教室で、同じテーマについて連続して学ぶことで、「防災」についての日本語習得が進むことは当然であるが、それだけでなく、それを一つのきっかけに、日本人住民とのやりとりが生まれることが重要であると考えた。そのやりとりから相互理解を深め、さらにやりとりが展開した。その関係性が「日本語力の向上」には欠かせないものであると実感した。		
参加対象者	東京近郊に在住する難民で、日本語でのコミュニケーションがほぼできない人	参加者数 (内 外国人数)	6人(6人)
広報及び募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援室既受講者を通じての口コミで教室実施を周知した ・2020年度になり、当団体に日本語学習の申込をしてきた方々に電話やメールで教室実施を知らせた 		

開催時間数	総時間 60時間		内訳 4時間 × 1回 3時間 × 7回 2.5時間 × 2回 2時間 × 14回 1時間 × 2回								
主な連携・協働先	(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部、なんみんフォーラム参加各団体										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本	計
※該当する場合のみ	ミャンマー5人、アフガニスタン1人										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年1月23日(土) 13時30分-16時30分	3	オンライン	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) zoomの操作確認 B) 目標「日本語であいさつや簡単な自己紹介が できる」 1、あいさつの仕方 2、自己紹介の言い方 3、相手のことを尋ねる 4、あいさつ	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)			
2	令和3年1月26日(火) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべ りタイム	田中 康予	1人			
3	令和3年1月28日(木) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 B) 目標「自分の好きなことを伝える」 1、動画資料→内容確認 2、自分の好きなことを話す ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべ りタイム	田中 康予	1人			
4	令和3年1月30日(土) 13時30分-16時30分	3	オンライン	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 B) 目標「相手にわかりやすく自己紹介ができる」 1、今までの自己紹介についての振り返り 2、自己紹介作文を書く 3、発表	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)			
5	令和3年2月2日(火) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	3	I 健康・安全に暮らす O2安全を守る (O1)医療機関で治療 を受ける	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 B) 目標「身体名称を理解することができる」 ・身体名称 ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべ りタイム	田中 康予	1人			
6	令和3年2月4日(木) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	2	I 健康・安全に暮らす O2安全を守る (O1)医療機関で治療 を受ける	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 B) 目標「病気の症状の言い方を理解することが できる」 ・病気の症状の表現 ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべ りタイム	田中 康予	1人			
7	令和3年2月6日(土) 13時30分-16時30分	3	オンライン	4	I 健康・安全に暮らす O1健康を保つ(O1)医 療機関で治療を受ける (O2)薬を利用する	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 B) 目標「欠席・遅刻連絡をすることができる」「自 分で薬を買うことができる」 1、症状の語彙の復習 2、理由の言い方 3、電話のかけ方 4、薬のことば	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)			

8	令和3年2月9日(火) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	4	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (01)医療機関で治療を受ける	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 B)目標「日本の病院の専門科を理解することができる」「日本語で病院の診察が受けられる」 1、病院の言葉、～科 2、受付の流れを知る ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべりタイム	田中 康予	1人
9	令和3年2月11日(木) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	4	III消費活動を行う05物 品購入・サービスを利用する(08)物品購入・ サービスを利用する	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ・漢字 B)目標「スーパーで安く、ほしいものを見つけ、買 い物ができる」 1、前回の復習(医者のことば、検査のことば) 2、スーパーでのものの探し方 3、安い表示を理解する 4、肉の表示を理解する 5、スーパーで役に立つもの ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべりタイム	田中 康予	1人
10	令和3年2月13日(土) 13時30分-16時30分 ※12時30分-13時30分 まではワークショップに 参加	1 + 3	オンライン	3	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え対応 する	A)ワークショップへの参加 1. 避難所がどんな所か知っておこう 2. 避難所に行く時に注意すること 3. 避難所に持って行きたい防災グッズ B)目標「日本で起こる災害を知ることができる」 「災害時の行動や情報収集について知ることが できる」 1、災害とは 2、ワークショップの振り返りと確認 3、テレビニュースを見て情報を理解する 4、災害情報アプリの使い方	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)
11	令和3年2月16日 (火) 18時30分-21時	1.5 + 1	オンライン	4	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え対応 する IX自身の豊かにする(2 0)余暇を楽しむ	A)次回の料理教室の連絡 1、実施内容の連絡 2、調理器具の紹介 3、食材の紹介 5、質問事項を考える B)目標「災害時のアプリの見方や使い方がわか る」「非常持ち出し袋について理解できる」 1、前回の復習 2、災害時のアプリの見方、使い方 3、非常用持ち出し袋とは何か ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべりタイム	田中 康予	植木 千津
12	令和3年2月18日(木) 18時30分-21時	1.5 + 1	オンライン	4	IX自身の豊かにする(2 0)余暇を楽しむ	炊飯器でデザート作り 目標「調理方法を聞きながら、デザートを作ること ができる」「うちにあるものを利用し、簡単に料理 できることを知る」 1、本日のテーマ確認・作業準備 2、調理器具・食材の確認 3、実習 4、調味料や料理に関する質問 5、出来上がりの確認 6、実食・感想 ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべりタイム	田中 康予	植木 千津
13	令和3年2月20日(土) 13時30分-16時30分	3	オンライン	4	IX自身の豊かにする(2 0)余暇を楽しむ	A)参加者の識字レベルに合わせた文字学習:漢 字 B)目標「調理の語彙を日本語でも理解できる」 「日本食の作り方を理解し、日本語でレシピにま とめることができる」 1、前回の振り返り 2、レシピ作り 3、調理の語彙 4、オリジナルレシピ作り	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)
14	令和3年2月23日(火) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	5	IX自身の豊かにする(2 0)余暇を楽しむ	目標「料理のレシピをクラスメートに紹介すること ができる/クラスメートの料理のレシピを聞き、理 解することができる」 1、ヘルプカードの書き方 2、前回の復習 3、レシピの言い方 4、レシピ発表会 ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべりタイム	田中 康予	1人

15	令和3年2月25日(木) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	4	Ⅷ社会の一員となる 1 5地域・社会のルール・ マナーを守る(34)住民 としてのマナーを守る	A)ミャンマー語での災害情報の得方 B)目標「ごみの分別ルールを理解することができる」「普段のごみの分別を振り返ることができる」 1、ごみの種類・分別について 2、ごみの出し方 ※指導者との学習後にボランティアとおしゃべりタイム	田中 康予	1人
16	令和3年2月27日(土) 13時30分-16時30分	3	オンライン	3	Ⅷ社会の一員となる 1 5地域・社会のルール・ マナーを守る(34)住民 としてのマナーを守る X情報を収集・発信す る(46)インターネットを 利用する	A)参加者の識字レベルにあわせた文字学習・漢 字 B)目標「粗大ごみの出し方やごみを減らす方法 や環境保護について理解を深めることができる」 1、前回の復習 2、ごみの出し方 3、粗大ごみの出し方 4、ごみの分別クイズ 5、マークの意味 6、ごみを減らす方法 C)目標「スマートフォンで日本語入力ができる」 1、日本語で文字を入力する	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)
17	令和3年3月2日(火) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	4	X情報を収集・発信す る(46)インターネットを 利用する	A)参加者の識字レベルにあわせた文字学習・日 本語入力 B)目標「スマートフォンの機能や使い方を知るこ とができる」 1、I-phoneの機能 2、アプリの紹介 ※指導者との学習後にボランティアとおしゃべり タイム	田中 康予	1人
18	令和3年3月4日(木) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	4	X情報を収集・発信す る(46)インターネットを 利用する	A)参加者の識字レベルにあわせた文字学習・日 本語入力 B)目標「スマートフォンやタブレットから申込書や 登録書に日本語で入力ができる」 1、前回の振り返り 2、使っているアプリやポイントカードの紹介 3、ポイントカードのアプリに登録をする ※指導者との学習後にボランティアとおしゃべり タイム	田中 康予	1人
19	令和3年3月6日(土) 13時30分-16時30分	3	オンライン	3	X情報を収集・発信す る(46)インターネットを 利用する	A)参加者の識字レベルにあわせた文字学習・漢 字 B)目標「スマートフォンやタブレットから申込書や 登録書に日本語で入力ができる」「アプリの登録 ができる」 1、前回の振り返り 2、ポイントカードのアプリに登録をする 3、便利なアプリの紹介	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)
20	令和3年3月9日(火) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	3	X情報を収集・発信す る(46)インターネットを 利用する「日本語入力 スマートフォンを使う」	目標「日本語の勉強に役立つアプリやサイトを理 解する」「日本語でのニュースを読んで理解する」 1、前回の振り返り 2、日本語学習に役立つアプリやサイトの紹介 3、ブックマークやお気に入り登録の方法 4、日本語でのニュースを読んでみる ※指導者との学習後にボランティアとおしゃべり タイム	田中 康予	1人
21	令和3年3月11日(木) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	3	Ⅸ自身の豊かにする(2 0)余暇を楽しむ	A)参加者の識字レベルにあわせた文字学習・漢 字 B)マイナンバーカード、マイナポイントの登録につ いて C)目標「歌を聞いて、歌詞の内容を理解すること ができる」 1、日本語の歌や歌手、グループについて 2、歌の歌詞を聞き取る 3、歌詞の内容を理解する ※指導者との学習後にボランティアとおしゃべり タイム	田中 康予	1人
22	令和3年3月13日(土) 13時30分-16時30分	3	オンライン	3	Ⅸ自身の豊かにする(2 0)余暇を楽しむ	A)目標「歌を聞いて、歌詞の内容を想像したり、 理解することができる」 1、前回の振り返り 2、タイトルから内容を想像する 3、歌の歌詞を聞き取る 4、歌詞の内容を理解する B)クラスの振り返り	田中 康予	吉田 綾子 (指導補助者、謝金発生なし)

23	令和3年3月15日 (火) 18時30分-19時30分	1	オンライン	2	振り返り(1)	クラスを振り返って日本語で話す 今後の学習について相談する	矢崎理恵 (コーディネーター)	LIA CING LAM MANG
23	令和3年3月16日 (火) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	3	Ⅲ消費活動を行う06お金を管理する(09)金融機関を利用する	A)参加者の識字レベルにあわせた文字学習:漢字(銀行、ATM) B)目標「ATMの指示を読んだり、使い方を理解することができる」 1、銀行やATMでの経験について 2、ATMの操作画面のことば 3、ATMの使い方 4、振り込みなどの仕方 C)歌の振り返り ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべりタイム	田中 康予	1人
24	令和3年3月16日 (火) 17時30分-18時30分	1	オンライン	2	振り返り(2)	クラスを振り返って日本語で話す 今後の学習について相談する	矢崎理恵 (コーディネーター)	LIA CING LAM MANG
25	令和3年3月18日 (木) 18時30分-20時30分	1.5 + 0.5	オンライン	3	X情報を収集・発信する 21通信する(46)インターネットを利用する	A)クラスの振り返り B)目標「日本語でメールを送ることができる」 1、メールの使用について 2、日本語のメールを読む 3、日本語のメールの書き方 4、メールを打つ・送る C)クラスのみみんなにメッセージを伝える ※指導者との学習後にボランティアとのおしゃべりタイム	田中 康予	1人
計		60		86				

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第10回 令和3年2月13日】

※「防災を学ぶ」を大テーマに2回連続で実施。その1回目。ZOOMを利用したオンライン学習。

①ワークショップ(様々な参加者といっしょに)に参加した後、②通常クラスで学びを深める の流れで学習を進めた。

①ワークショップ(取組2-2に報告あり)

- 1. 避難所がどんな所か知っておこう
- 2. 避難所に行く時に注意すること
- 3. 避難所に持って行きたい防災グッズ

- ・さぼうと21の学習者向けの防災ワークショップに参加した。
- ・3つのテーマについての講義を聞き、グループに分かれ、他の参加者たちと内容確認を行った。

通常メンバーでワークショップを振り返った後、災害についてさらに学ぶ

B)目標「日本で起こる災害を知ることができる」「災害時の行動や情報収集について知ることができる」

1、災害とは

ワークショップの振り返りをしながら、どんな災害があるかを引き出す→ニュースなどで目にする災害の漢字を確認

2、ワークショップの振り返りと確認

避難所について感想を聞く→避難所はどこなところか、注意点などを確認→ワークショップでわからなかったところを全体で共有→避難所や非常口などのマークの確認→災害が起きたときの対処法を話し合う(断水、停電時など)

3、テレビニュースを見て情報を理解する

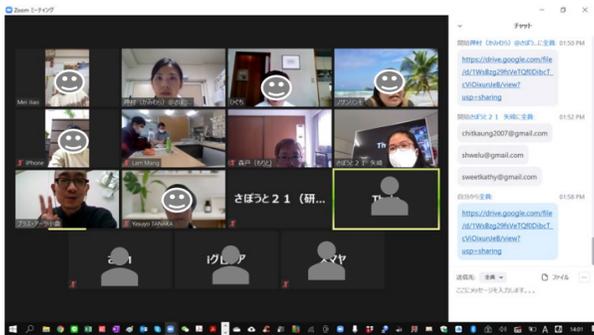
ニュースのテロップを見て、「避難レベル〇」や「緊急地震速報」「震度〇」などの情報を見つける→その意味やレベル、行動の確認

4、災害情報アプリの使い方

ワークショップで紹介されたアプリをダウンロードする→「ヤフー防災情報」のアプリの登録や使い方を確認

※指導者所感等

- ・ワークショップではミャンマー語での説明もあったため、大体内容を理解することができた様子。ハザードマップや防災ガイドなどは、今まで何かわからず捨てていたが、今度は役所にもらいに行くと話していた。
- ・リャンさんが2011年の震災を体験した人がいたので、その時の様子を話してもらった。経験のある方は、小さいお子さんもいらっしゃるためか防災への意識が高いように感じた。避難場所などもすでに把握していた。
- ・断水や停電時の対処法については、ミャンマーでの経験があり、具体的にどう行動するか理解されていた。
- ・ワークショップで出てきた避難レベルなどを実際のテレビニュースのテロップを見て、どこに書いてあるか、何が書いてあるのかを探す練習をした。レベル3になったら避難することは理解されていたが、他のレベルの内容について質問が挙がり、確認をした。水害だけではなく、地震の速報についても紹介を行った。
- ・防災情報を入手できるアプリをダウンロードしたが、使い方が難しく、3人で「ダウンロードしただけではだめだ」と、いっしょに同じ「ヤフー防災情報」のアプリの使い方を確認した。次回、再度防災について取り上げたい。アプリの操作についても確認を行う予定である。



↑まずはワークショップに参



↑授業では、ワークショップの復習から開始

○取組事例②

【第11回 令和3年2月16日】

① 次回の料理教室の連絡と相談(詳細略)

② 目標「災害時のアプリの見方や使い方がわかる」「非常持ち出し袋について理解できる」

1、前回の復習

前回のワークショップ、授業に参加した人たちが、欠席者に対してワークショップで行ったことや学んだことを伝えてもらう

→ニュースで目にする災害語彙の確認

→避難所について学習者から説明してもらいながら確認

2、災害時のアプリの見方、使い方

前回紹介されたアプリの確認→地震のときに使ったかなど話す→使い方をスライド+画像を使いながら再確認

3、非常用持ち出し袋とは何か

どんなものを持って逃げるか引き出す→前回のワークショップでの学びの復習→指導者の非常用持ち出し袋の中身の紹介

※指導者所感等

・前回の授業後の夜に地震が起きたため、ワークショップで学んだことやアプリが役に立ったと、参加者から報告があった。「災害が怖くなった」とのこと
で、危機意識が高まったように感じた。前回授業参加者が「先生」となって、前回学んだことを欠席者に伝える形で授業を進めた。

・アプリは実際にとても役に立ったようであった。使い方を画像を共有し、いっしょに操作しながら確認していった。

・非常用持ち出し袋を見せると、「先生は何を入れていますか？」と質問があり、指導者が実際に準備しているものを紹介した。3名とも水、薬、充電器
などは準備しているようであった。

・勉強した直後に地震が実際に起きたことで、防災学習の必要性を実感し、危機管理能力が高まっているように感じた。初めて長く強い地震を体験した
ため、どきどきしてどう行動していいかわからなくなってしまったようだが、勉強した資料やアプリを見て、安心したと話していた。



↑ スマホで効率よく災害情報が得られるように、情報シェア



↑ 授業内で利用したパワーポイントデー

(2) 目標の達成状況・成果

・オンラインでの日本語教室開催については、初級者に向けてどのように授業を進めていけるか、不安も大きかったが、それは、学習者も同様であった。
しかし、目標は十分に達成し、大きな成果をおさめることができた。

講座終了時点で実施した学習者へのヒアリングでは、「オンライン授業に対する見方が変わった」「わからないことがわかるようになって、生活が便利になった」「みんなと知り合えてうれしい」などの感想が挙げられた。そして「まだまだ知りたいことがある」「時間が短かった」など今後の学習への意欲も感じられた。

指導者、コーディネーターの振り返りでも、学習者が自宅から参加できるオンライン日本語学習は、想定していた以上に効果的である。その理由として以下が考えられる

- 1 自宅からの参加の場合、自身のもてるリソースを総動員して授業参加ができることから、実際の生活に直結した学びが可能である
- 2 オンライン上では、複数名が同時に話すことができないため、自ずと「人の話をよく聞いて発言する」ことができるようになる
- 3 ネット上の情報を共有しやすい
- 4 録画が簡単なことから、前回授業の振り返りがしやすい
- 5 資料がみやすい
- 6 自身のホームにいるという安心感があるためか、皆、安心して授業に参加できている
- 7 移動時間を心配する必要がないため、週に複数回の開催、遅い時間の開催など、時間の融通がきく

(3) 今後の改善点について

・今回は初めてのオンライン開催であったため、その利点をまだ十分に生かしきれたとは言えない。より効果的で、学習者の生活に役立つ日本語学習、ワークショップ形式の参加型学習等、検討していきけるのではないかと考える

・文字学習をどのように進めるかも、他所での実践などを参考に、より充実した内容にしていきたい

<取組2-2> 【実施期間:令和 2年 10月 31日～令和 3年 2月 13日】

取組の名称		難民等外国人住民のための参加型日本語教室「生活力向上のためのワークショップ」の実施										
取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> 日本語でのコミュニケーションに不自由を感じる段階にある外国人住民も含めて、生活上必要な情報や知識を知り、生活力を向上させることで、定住への備えをすること 先輩外国人住民が通訳として講座に加わることで、生活上必要な情報や知識を正しく理解し、生活上のスキルを身につけて、それぞれのコミュニティのキーパーソンとして成長すること 社会や人への関心をもち、理解を深めることにより、日本語学習意欲を高めること 										
取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> ●1 全体の構成 「WS」は「専門家による講義」とし、「やさしい日本語で書かれた資料」を用意した テーマは「防災」を中心に、社会情勢なども考慮しながら検討した ※日本語力の有無に関係なく情報や知識、スキル等が学べ、意見が共有できるように、通訳付きとする ●2 講座時間等 原則として土曜日、12時-13時半を基本の時間として設定し、状況に応じて時間調整を行った ●3 使用教材 文化庁委託事業により作成された教材、「本気で防災日本語教材」等 ●4 その他 企画・準備段階から、先輩外国人住民(日本語能力試験N1合格者)複数名が情報提供側のメンバーとして参加し、学習者のニーズを広く掘り上げるようにした ※WS参加者の多くは、通常、さぼうと21が主催する日本語教室に参加する外国人住民、日本人住民。 										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—										
取組による体制整備		<ul style="list-style-type: none"> 教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた地域日本語教室のモデルを提示することを心がけた 「専門家」と「外国人住民」をワークショップ実施によってつなげ、双方の理解を深めることにより、ゆるやかなネットワーク構築を目指した 										
取組による日本語能力の向上		連続して(頻繁に、長期的に)同じテーマについて学ぶことで、とくに「防災」についての日本語習得が進むことは当然であるが、それだけでなく、それを一つのきっかけにした日本人住民とのやりとりが生まれることが重要であると考えている										
参加対象者		当団体の土曜日の学習支援室に通う外国人および「教室」参加者				参加者数 (内 外国人数)		22人 (17人)				
広報及び募集方法		主として当団体の教室参加者に向けて、メール、電話等で周知をはかった										
開催時間数		総時間 7時間				内訳		2時間 × 3回 1時間 × 1回				
主な連携・協働先		(特非)プラス・アーツ、順天堂大学医学部、東京都 都民安全推進本部 都民安全推進課										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
※該当する場合のみ		ミャンマー(14人)、エジプト(1人)、エチオピア(1人)、スーダン(1人)										
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	令和2年10月31日(土) 10:00~12:00	2	オンライン (Zoom)	10名 (ミャンマー8名、日本人2名)	新型コロナウイルス感染症対策	1. 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの違い 2. 感染しないためにできる予防方法 3. 実際にかかったときの対処方法	武田 裕子	順天堂大学医学部武田裕子ゼミ(医学部3年生) ※ボランティアにて参加のため、謝金の発生はなし LIA CING LAM MANG(通訳(指導補助))				

2	令和2年12月5日(土) 12:30~14:30	2	オンライン (Zoom) ※一部教室 から参加	14名 (ミャン マー6 名、エジ プト1 名、エチ オピア1 名、スー ダン1名、 日本人5 名)	防災 ～自宅の備え～	1. 避難の流れをチェック 2. 在宅避難の条件チェック 3. 家の中の安全チェック 4. 家の中のお役立ちグッズをチェッ ク	小倉 丈佳 (NPO法人プ ラス・アーツ)	LIA CING LAM MANG(通訳(指 導補助)) サーラ アブデルアジズ モハメド アリ イブラヒム(通訳(指導補 助))
3	令和3年1月30日(土) 14:00~15:00	1	オンライン (Zoom)	14名 (ミャン マー14名)	青少年のための 安全啓発	1. 夜道で気を付けること 2. SNSやインターネットトラブル 3. その他の犯罪 4. 犯罪から身を守るために	ティエナン 英子 ※東京都都民 安全推進本部 主催	LIA CING LAM MANG(通訳(指 導補助))
4	令和3年2月13日(土) 12:30~14:30	2	オンライン (Zoom)	15名 (ミャン マー10 名、エジ プト1 名、日本 人4名)	防災 ～避難所生活へ の備え～	1. 避難所がどんな所か知っておこう 2. 避難所に行くときに注意すること 3. 避難所に持っていきたい防災グッ ズ	小倉 丈佳 (NPO法人プ ラス・アーツ)	LIA CING LAM MANG(通訳(指 導補助))
計		7		53				

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第2回 令和2年12月3日】

【テーマ】:防災～自宅の備え～

【講師】:(特非)プラス・アーツ

【参加者】:14名(ミャンマー6名、エジプト1名、エチオピア1名、スーダン1名、日本人5名)

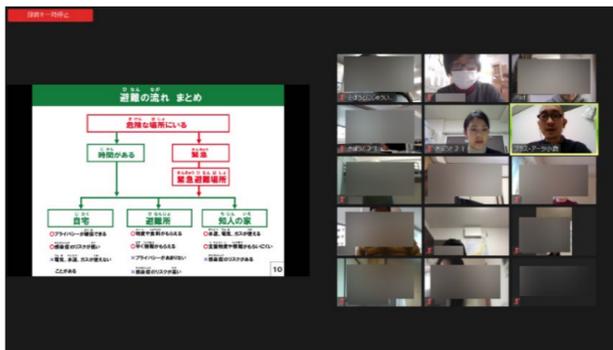
【目的】:水害、地震、感染症といった災害が起こった時の様々な避難の方法、在宅での避難生活をより快適に安心して過ごすために必要な備えを学ぶ

【内容】:

1. 避難の流れをチェック
2. 在宅避難の条件チェック
3. 家の中の安全チェック
4. 家の中のお役立ちグッズをチェック

※各テーマ毎に振り返りと質疑応答の時間を設け、正しく理解してもらうことを心掛けた

【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式



↑ ZOOMを用いたオンラインワークショップの様子



↑ パソコン環境が整っていない方には教室に来てもらい、ワークショップに参加する形とした

○取組事例②

【第4回 令和3年2月13日】

【テーマ】:防災～避難所生活への備え～

【講師】:(特非)プラス・アーツ

【参加者】:15名(ミャンマー10名、エジプト1名、日本人4名)

【目的】:感染症が猛威をふるう中、在宅避難も注目されるようになっている。避難方法をどのように決めたらよいのか、そのために必要な備えは何かなどを学ぶ

【内容】:

1. 避難所がどんな所か知っておこう
2. 避難所に行く時に注意すること
3. 避難所に持って行きたい防災グッズ

【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式



↑ ZOOMを用いたオンラインワークショップの様子



↑ 避難時の持ち物について、クイズ形式で皆で答えを考える時間

(2) 目標の達成状況・成果

本講座の目標として掲げた以下3点について、各回のワークショップ終了時に行った講師や通訳へのヒアリングの結果、またコーディネーターの観察をもとに達成状況・成果を判断する。

1. 日本語でのコミュニケーションに不自由を感じる段階にある外国人住民も含めて、生活上必要な情報や知識を知り、生活力を向上させることで、定住への備えをする
外国人住民の関心の高い「健康」と「防災」をテーマに取り上げた。ワークショップ参加者の多くがミャンマー出身であることに配慮し、ビルマ語通訳を配備した。ミャンマー出身者以外の方が参加した場合でも、その言語の通訳者の準備に努め、日本語レベルに左右されることなく、正しく理解することを実現できたと考える。
2. 先輩外国人住民が通訳として講座に加わることにより、生活上必要な情報や知識を正しく理解し、生活上のスキルを身につけて、それぞれのコミュニティのキーパーソンとして成長する
通訳者として関わってもらった方は講座資料の事前確認や講師との打ち合わせ、事後の振り返りを通して、知識の定着が図れている。また、通訳者に限らず、回数を重ねて実施している「防災」ワークショップに関しては、毎回欠かさず参加している学習者もあり、そういった方を通して、正しい知識が彼ら彼女らが属する外国人コミュニティにも広がっていると考える。
3. 社会や人への関心をもち、理解を深めることにより、日本語学習意欲を高めること
新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学習支援教室の縮小開催が余儀なくされる事態が続いており、日本語学習がストップしてしまった学習者もいた。そんな状況下において、ワークショップへの参加をきっかけとして日本語学習の必要性に改めて気が付き、オンラインでの学習参加希望の問い合わせ等があり、日本語学習への意欲を高まりに繋がったと考える

(3) 今後の改善点について

今後の改善点は以下の通りである。

1. 取組内容について、外国人住民のニーズを常に意識しながら必要となるテーマを取り上げる
生活上必要な知識は何であるか、通訳をはじめとした外国人住民にヒアリングを行うことで、ニーズが高いテーマを今後も取り上げていく。必要に応じて、以前文化庁事業にて実施させていただいたワークショップのテーマをさらに深掘りした上で実施することも検討する。
2. 当会に蓄積されているワークショップ実績を他地域においても、必要に応じて提供していく
当事者団体や難民支援団体、外国人住民が集う日本語教室等に周知することで、必要に応じて外部出張も検討していきたい。外部で講座を開催することを通して、より多くの外国人住民に正しく必要な情報を伝えることができると考える。

<取組3-1> 【実施期間:令和 2年 6月 28日~令和 3年 3月 14日】

取組の名称		地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座									
取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度の事業目的である「防災」を活動に取り入れた教室活動への理解を深めること ・地域日本語教室で活動する日本語学習支援者のゆるやかなネットワークをつくること ・地域日本語教室で活動を始めるボランティアが、外国人住民との対等な関係づくりを旨とする「日本語学習支援」について理解を深め、そこに必要とされる知識や姿勢、技能を身につけること 									
取組の内容		<p>1 地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座】(以下「活動基礎講座」と記す)</p> <p>●対象 日本語教室のボランティアに関心のある方、活動を始めたばかりの方</p> <p>●講座時間等 10時~12時、13時~15時・4時間/回・全5回 20時間を2期(5月~9月、11月~3月の第1日曜日)</p> <p>●全体の構成・内容(案) 【午前または午後(キーワード:多文化共生)】 ①「多文化共生とは/地域日本語教室に期待される役割」 ②「在留資格の基礎の基礎を知る」 ③「異文化理解」(レヌカの学び等体験) ④「聴く」の基礎の基礎 ⑤「外国人からの相談を受けたら」</p> <p>【午後または午前(キーワード:日本語学習支援)】 ①「地域日本語教育の実践を知る(※「防災」との関係にも言及)」 ②「特定の対象者に対する日本語教育を知る(技能実習生、留学生、生活者等)」 ③「やさしい日本語(※「防災」との関係にも言及)」 ④⑤「日本語学習支援の基礎の基礎(「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案)を含む」</p> <p>●その他 ・できる限り「現場を知る」専門家に講義を依頼した ・「多文化共生」「地域日本語教育の実践」「特定の対象者に対する日本語教育」については、一般公開。 ・そのほかの講座は講師、内容ともに固定とし、内容の充実を図った ・内容検討にあたっては『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版』(文化審議会国語分科会・平成31年)を参考とした</p>									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—									
取組による体制整備		地域日本語教室を外国人の防災学習の場ととらえ、防災学習をきっかけに地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等の多様な機関の間にネットワークが構築されることを目指した。それをつないでいくのは「人」である。活動基礎講座を複数実施することで、本事業への理解者、「担い手」が増えた。									
取組による日本語能力の向上		本取組は、「日本語学習支援者」育成の取り組みであることから、直接外国人住民の日本語力向上に資するものではないが、外国人住民のニーズや求めに配慮できる日本語学習支援者が増えていくことは、外国人住民の日本語習得に大きく貢献するであろう									
参加対象者		地域日本語教室でボランティアを始めて間もない方	参加者数 (内 外国人数)			87 人 (0人)					
広報及び募集方法		<p>1 東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)、埼玉日本語ネットワーク、房総多文化日本語ねっと 多文化共生教育研究会、(公財)かながわ国際交流財団 等のメーリングリストでの案内</p> <p>2 当団体ホームページでの案内</p> <p>3 過去の研修会参加者などへのメールでの案内</p>									
開催時間数		総時間 40時間			内訳 1回 4時間 × 5回 × 2期						
主な連携・協働先		東京都行政書士会品川支部、(特非)国際活動市民中心、明治学院大学他、講師所属の協会等									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本	計
										87	87
※該当する場合のみ											

実施内容（春夏講座）								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年6月28日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	27	地域での日本語教育の実践に学ぶ	神戸市における多文化共生の地域づくりと地域日本語教室」のタイトルで、日本語教室がどのように行政等と連携をはかり、活動を展開させたか	遠藤 知佐	矢崎理恵
2	令和2年6月28日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	25	多文化共生社会の中で、地域日本語教室に期待される役割	日本に暮らす外国人であり、教育分野の専門家でもある講師の視点から、とくに「外国につながる子ども」に焦点をあてて日本の多文化共生の現状を講義	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス	矢崎理恵
3	令和2年7月5日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	27	特定学習者層への日本語教育を知る(生活者)	コロナ禍での日本語教室の実践を紹介、参加者間での意見交換	矢崎 理恵	なし
4	令和2年7月5日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	28	日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは？	「在留資格(ビザ)～入管法が導く外国人との共生社会を読み解く羅針盤として～」をベースにした講義	長岡 由剛	矢崎理恵
5	令和2年7月19日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	21	「やさしい日本語」って？	「日本社会とことば」についての講義、「やさしい日本語」化をワーク中心に学習、災害時の「やさしい日本語」の有用性についても言及	岩田 一成	矢崎理恵
6	令和2年7月19日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	18	「異文化を理解する」って？	開発教育教材「レヌカの学び」を使用した参加型学習を通して、異文化に接する際に必要な心構えについて学ぶ	田中 美穂子	矢崎理恵
7	令和2年8月2日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	18	日本語学習支援のきそのきそ1	「日本語の特徴」「日本語がうまいとは？」「外国人にとって必要な日本語とは？」「対話型日本語支援活動の例」など、具体的な文例や語彙で考える	岩田 一成	矢崎理恵
8	令和2年8月2日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	17	上手な聴き手になるには？	「共感的理解」を持った聴き手になるー「会話泥棒」にならないために」のタイトルでワーク中心の研修	大瀧 敦子	矢崎理恵
9	令和2年8月23日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	21	日本語学習支援のきそのきそ2	「日本語ってどんな言語？」「日本語教育の文法シラバス」「日本語の語彙あれこれ」を具体的な文例や語彙で考える	岩田 一成	矢崎理恵
10	令和2年8月23日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	19	外国人からの相談を受けたら？	「身近な外国人からこんな相談・・・あなたならどうする？」のワークの後に、「外国人相談」とは「外国人相談の最前線としての地域日本語教室」について情報提供、具体的な対応策の学びあい	新居 みどり	矢崎理恵
計		20		221				
実施内容（秋冬講座）								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年1月24日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	31	多文化共生の社会の中で、地域日本語教室に期待される役割	日本に暮らす外国人であり、防災の専門家でもある講師の視点から、とくに「防災」「減災」に焦点をあてて日本の多文化共生の現状を講義	楊 梓	矢崎理恵
2	令和3年1月24日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	31	地域での日本語教育の実践に学ぶ	「横浜における多文化共生の地域づくりと地域日本語教室」について、具体的な地域での活動展開を当事者の経験談を交え紹介	門 美由紀 藤井 美香	劉玉珊(発表者) 矢崎理恵
3	令和3年3月31日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	31	日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは？	「在留資格？」「在留資格について知る」(日本に在留する外国人、在留資格の種類(資格外活動、在留カード、手続きなど))、「人」から考える在留資格」「在留資格と日本語力」の流れで講義	長岡 由剛	矢崎理恵
4	令和3年3月31日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	37	特定学習者層への日本語教育を知る(留学生、技能実習生)	コロナ禍において「技能実習生に対する日本語教育」「留学生に対する日本語教育」がどのような状況にあるかを学ぶ	山本 弘子 栗又 由利子	矢崎理恵
5	令和3年2月7日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	27	「異文化を理解する」って？	開発教育教材「レヌカの学び」を使用した参加型学習を通して、異文化に接する際に必要な心構えについて学ぶ	田中 美穂子	矢崎理恵
6	令和3年2月7日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	25	「やさしい日本語」って？	「日本社会とことば」についての講義、「やさしい日本語」化をワーク中心に学習、災害時の「やさしい日本語」の有用性についても言及	岩田 一成	矢崎理恵
7	令和3年3月7日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	23	上手な聴き手になるには？	「共感的理解」を持った聴き手になるー「会話泥棒」にならないために」のタイトルでワーク中心の研修	大瀧 敦子	矢崎理恵
8	令和3年3月7日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	21	日本語学習支援のきそのきそ1	「日本語の特徴」「日本語がうまいとは？」「外国人にとって必要な日本語とは？」「対話型日本語支援活動の例」など、具体的な文例や語彙で考える	岩田 一成	矢崎理恵

9	令和3年3月14日(土) 10:00~12:00	2	オンライン	21	外国人からの相談を受けたら？	「身近な外国人からこんな相談・・・あなたならどうする？」のワークの後に、「外国人相談」とは「外国人相談の最前線としての地域日本語教室」について情報提供、具体的対応策の学びあい、コロナ禍の外国人相談の現状についての報告	新居 みどり	矢崎理恵
10	令和3年3月14日(土) 13:00~15:00	2	オンライン	19	日本語学習支援のきそのきそ2	「日本語ってどんな言語？」「日本語教育の文法シラバス」「日本語の語彙あれこれ」を具体的な文例や語彙で考える	岩田 一成	矢崎理恵
計		20		266				

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

秋冬講座【第1回前半 令和3年1月24日】

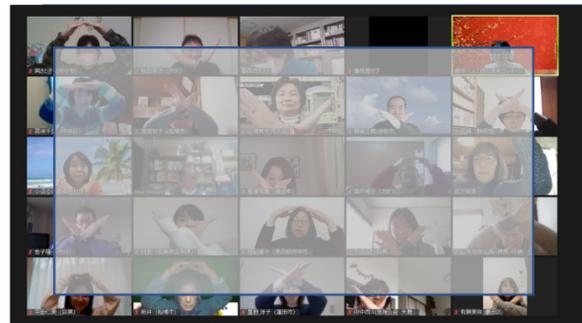
【テーマ】:「多文化共生の社会の中で、地域日本語教室に期待される役割」
【講師】:楊 梓(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 主任研究員)
【参加者】:31名
【内容】:
●日本語教室の役割
●何を教育するのか?⇒災害は重要なテーマ
●一人ひとりの防災リテラシー
●災害時の外国人対応
●コロナ禍の災害対応
【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式

※コーディネーター所感

・日本社会で長い経験を持ち、防災の専門家である講師の話は、「多文化共生」「防災」両面から非常に説得力のあるものだった
・「日本語学習支援者がやるべきこと」として、①自分の防災リテラシーを高める、②災害時の外国人対応を知る→今後の方向:外国人を担い手として育成する、「災害とは「災害因(ハザード)」と「ぜい弱性」が重なり合って生じる」「ストック情報」と「フロー情報」など、具体例を交えて、説明がなされ、受講者の多くが災害時の外国人に対して、どのような配慮が必要か、考える契機となった
・オンライン開催であったことから、防災に関心のある自治体職員、国際交流協会職員などの参加がみられた



↑ 講師の楊梓さんは、神戸から。オンラインのおかげでご出講이었다



↑ 国内のあちこちから参加

○取組事例②

春夏講座【第5回後半 令和2年8月23日】 秋冬講座【第5回前半 令和3年3月14日】

【テーマ】:「外国人からの相談にどう対応する?!しない?!」を考える」

【講師】:新居みどり(NPO法人国際活動市民中心(CINGA))

【参加者】:春夏講座 19名、秋冬講座 21名

【内容】:

● ワークショップ

「身近な外国人からこんな相談……あなたならどうする？」

● 「外国人相談」とは

● 外国人相談の最前線としての地域日本語教室

● ふりかえり・意見交換日本語教室の役割

※東京都外国人新型コロナ生活相談センター(TOCOS)の状況について紹介

【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式

※コーディネーター所感

・外国人相談の基本的な目標を「外国人住民が日々の生活の中で抱える問題について、専門家から適切なアドバイスを得ることで、外国人自身がその問題を解決できるように支援すること」と明示し、あわせて地域日本語教室を「外国人相談の最前線」と位置付け、毎回説得力のある講義となっている

・東京都に特化してではあるが、コロナ関連の相談窓口などの詳しい話があり、多くの受講者が非常に熱心にお話を聞いていた



↑ ブレークアウトルームに分かれたり、参加者全員で考え



↑ 講座最終日は、チャットにも多くの感想が寄せられた

(2) 目標の達成状況・成果

毎回受講者向けに実施したアンケートの回答をもとに検証する

・2020年度の事業目的である「防災」を活動に取り入れた教室活動への理解を深めること

→「防災」に限るものではないが、各講師の講義、先進的な取り組みを進める兵庫県、横浜市の事例等を知り、教室活動のあり方について考える機会が得られた。また、今回、防災を専門とする講師が登壇し、地域日本語教室への期待を語って下さり、受講者には説得力があった。「防災の観点から地域の日本語教室の役割について考えるというのは興味深いと思いました。」「外国人住民にとって日本語教室という場がいろいろな面で重要な役割を果たしていることを再認識することができた。」などの感想からもそのことがうかがえる

・日本語教室で活動する日本語学習支援者のゆるやかなネットワークをつくること

→今回は同講座の過去受講者に講座実施を周知した。数日間の間定員以上の申し込みが見られた。これまでに築いてきた、日本語学習支援者間のゆるやかなネットワークができあがっていることを実感した。目標は十分に達成されてる

・地域日本語教室で活動を始めるボランティアが、外国人住民との対等な関係づくりを旨とする「日本語学習支援」について理解を深め、そこに必要とされる知識や姿勢、技能を身につけること

→アンケートの回答の中で、達成を確認することはできなかったが、受講者からは毎回熱心なコメントが寄せられ、講座への満足度は非常に高かった

(3) 今後の改善点について

・「在留資格」に関する講座は、受講者からの要望が二極化しており、講義内容について、さらに精査が必要かと思われる

・固定化している部分の講座を担当する講師と、講座全体を検討する場を設け、「活動基礎講座」全体の見直しを行い、よりよい講座としていきたい

・オンライン講座は、想定していた以上に受講者の満足度が高かった。その利点を生かし、研修受講の機会の少ない方々にも講座開催の情報が届くよう、工夫していきたい

<取組3-2> 【実施期間:令和 3年 2月 1日~令和 3年 2月 26日】			
取組の名称	地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ研修「出張型ミニ活動基礎講座」⇒「オンライン／出張型活動基礎講座(特別編)」		
取組の目標	<p>・出張型講座の実施により、同じ教室(または地域)で活動をする日本語学習支援者同士が共に学び、考えあう機会を得ると同時に、「地域日本語教室を外国人住民の防災学習の拠点に」という本事業への理解者、協力者を増やすこと</p> <p>・活動休止を余儀なくされている地域日本語学習支援者が、オンライン学習支援のスキルを獲得すると共に、「防災」ワークショップを取り入れた日本語学習活動への理解を深める</p>		
取組の内容	<p>コロナ禍にあり、当初予定していた出張型ミニ講座の実施では、休止中の教室にとっては実施が難しいと判断し、「オンライン／出張型活動基礎講座」を実施した。</p> <p>■ 対象: 地域日本語教室でボランティアとして活動中の方 ■ 定員: 各回8名-25名 ■ 方法: ZOOM利用によるオンライン</p> <p>■ 内容</p> <p>【第1週】 2月1日(月)~2月5日(金) ※各回定員8名まで -ZOOMに入室して、基本操作ができるようになる</p> <p>【第2週】 2月8日(月)~2月12日(金)※祝日を除く ※各回定員8名まで -日本語支援に必要な ZOOMの基本操作ができるようになる</p> <p>【第3週】 2月15日(月)~2月19日(金) ※各回定員20名まで -学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる 「つながるひろがるにほんごでのくらし」「きいてまねしてはなして」「NHK各種教材」</p> <p>【第4週】 2月22日(月)~2月26日(金) ※各回定員20名まで -ZOOMであれこれやってみる、あれこれ考えてみる 「料理ワークショップ」「防災ワークショップ」などを体験する</p> <p>【その他】 東久留米地域、江東区近辺、多摩市近辺、田村市国際交流協会等への出張防災講座実施</p>		
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—	
取組による体制整備	地域日本語教室を外国人の防災学習の場ととらえ、防災学習をきっかけに地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等の多様な機関の間にネットワークが構築されることを目指した。それをつないでいくのは「人」であることから、各地域から講座参加する方々に対して、本事業の意義を伝えるべく、講座を展開した。		
取組による日本語能力の向上	本取組は、「日本語学習支援者」育成の取り組みであることから、直接外国人住民の日本語力向上に資するものではないが、外国人住民のニーズや求めに配慮できる日本語学習支援者が増えていくことは、外国人住民の日本語習得に大きく貢献する		
参加対象者	地域日本語教室でボランティアとして活動中の方	参加者数 (内 外国人数)	138人 (0人)
広報及び募集方法	1 東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)、埼玉日本語ネットワーク、房総多文化日本語ねっと等のメーリングリストでの案内 2 東京ボランティア・市民活動センターのhiroba(メーリングリスト) 3 過去の研修会参加者などへのメールでの案内		
開催時間数	総時間 74時間	1回 2時間×37回	
主な連携・協働先	(特非)プラス・アーツ、NHK国際局		

受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本	計
											138
※該当する場合のみ											
実施内容（春夏講座）											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年2月1日(月) 10:00~12:00	2	オンライン	4	ZOOMI入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMのログインする ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・+複数あるマイクの選択方法 ・+ハウリングの停止 ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・チャットを試してみる ・参加者を確認する ・バーチャル背景 ・通信環境について 	有田玲子	補助者：山本佳奈			
2	令和3年2月1日(月) 19:00~21:00	2	オンライン	4	ZOOMI入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMのログインする ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・+複数あるマイクの選択方法 ・+ハウリングの停止 ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・チャットを試してみる ・参加者を確認する ・バーチャル背景 ・通信環境について 	有田玲子	補助者：山本佳奈			
3	令和3年2月2日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	5	ZOOMI入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMIにログインする ・名前の変更 ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・+複数あるマイクの選択方法 ・+ハウリングの停止 ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・チャットを試してみる ・参加者を確認する ・バーチャル背景 ・通信環境について ・幅の調節 ・アプリの確認 ・スクリーンショットの撮り方 	有田玲子	補助者：中川美保			
4	令和3年2月2日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	4	ZOOMI入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMIにログインする ・名前の変更 ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・+複数あるマイクの選択方法 ・+ハウリングの停止 ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・チャットを試してみる ・参加者を確認する ・通信環境について *顔の補正機能 	中川美保	補助者：有田玲子			
5	令和3年2月4日(木) 10:00~12:00	2	オンライン	7	ZOOMI入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMIにログインする ・名前の変更 ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・チャットを試してみる ・リアクションボタン ・バーチャル背景 ・画面共有(ホワイトボード) ・スクリーンショットのやり方と保存場所 	西山陽子	補助者：有田玲子			
6	令和3年2月4日(木) 19:00~21:00	2	オンライン	5	ZOOMI入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMIにログインする ・名前の変更 ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・チャットを試してみる ・リアクションボタン ・バーチャル背景 ・画面共有(ホワイトボード) ・フィルタの使い方 	有田玲子	補助者：西山陽子			
7	令和3年2月5日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	5	ZOOMI入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMIにログインする ・名前の変更 ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・ピン止め ・チャットを試してみる ・参加者を確認する ・バーチャル背景 ・+グリーンスクリーン ・+ミラーリング機能 ・リアクションボタン 	中川美保	補助者：山本佳奈			

8	令和3年2月5日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	5	ZOOMに入室して基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMにログインする ・名前の変更 ・マイク/スピーカー/カメラのオンとオフ ・スピーカービューとギャラリービューの切替 ・ピン止め ・チャットを試してみる ・参加者を確認する ・バーチャル背景 ・リアクションボタン ・プリントスクリーンのやり方 ・チャットの保存方法と保存先 	中川美保	補助者：矢崎理恵
9	令和3年2月8日(月) 10:00~12:00	2	オンライン	12	日本語支援に必要なZOOMの基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・画面の確認 ・チャットにWEBサイトのURLをコピーして貼る ・PC内のファイルをチャットから送る ・会議ウィンドウにマージ ・待機室について ・全画面表示の終了 ・オプションを表示 ・左右表示モード ・画面のカテゴリの幅を変える ・画面共有 ・画面共有後のサイズ変更 ・PCのカメラで写真を撮る ・手元を映す方法 ・コメントをつける ・ホワイトボード ・PCのアンダーバーの表示 	有田玲子	補助者：山本佳奈
10	令和3年2月8日(月) 19:00~21:00	2	オンライン	9	日本語支援に必要なZOOMの基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・画面の確認 ・PC内のファイルをチャットから送る ・会議ウィンドウにマージ ・全画面表示の終了 ・オプションを表示 ・左右表示モード ・画面のカテゴリの幅を変える ・画面共有 ・画面共有後のサイズ変更 ・PCのカメラで写真を撮る ・手元を映す方法 ・コメントをつける ・ホワイトボード ・PCのアンダーバーの表示 ・ピン止め 	有田玲子	補助者：山本佳奈
11	令和3年2月9日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	15	日本語支援に必要なZOOMの基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・1週目の復習 ・手を挙げる、おろす ・リアクション ・チャット ・チャットの保存/保存先の確認 ・ポップアップから固定表示へのない) ・ノイズについて(暖房器具など) ・画面共有(ホワイトボード/PDF/音声/動画) ・画面共有後のサイズ変更 ・画面共有にコメントをつける/消す ・自分の手元を映す/学習者の手元を見る ・著作権について ・ピン止め 	有田玲子	補助者：中川美保
12	令和3年2月9日(火) 19:00~21:00	2	オンライン	11	日本語支援に必要なZOOMの基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・1週目の復習 ・手を挙げる、おろす ・リアクション ・チャット ・チャットの保存/保存先の確認 ・ポップアップから固定表示へのない) ・ノイズについて(暖房器具など) ・画面共有(ホワイトボード/PDF/音声/動画) ・画面共有後のサイズ変更 ・画面共有にコメントをつける/消す ・自分の手元を映す/学習者の手元を見る ・著作権について ・ピン止め 	中川美保	補助者：有田玲子

13	令和3年2月10日(水) 13:00~15:00	2	オンライン	7	日本語支援に必要なZOOMの基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・画面の確認 ・チャットにWEBサイトのURLをコピーして貼る ・PC内のファイルをチャットから送る ・会議ウィンドウにマージ ・待機室について ・全画面表示の終了 ・オプションを表示 ・左右表示モード ・画面のカテゴリーの幅を変える ・画面共有 ・画面共有後のサイズ変更 ・PCのカメラで写真を撮る ・手元を映す方法 ・コメントをつける ・ホワイトボード ・PCのアンダーバーの表示 	有田玲子	補助者：山本佳奈
14	令和3年2月12日(金) 10:00~12:00	2	オンライン	9	日本語支援に必要なZOOMの基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・1週目の復習 ・手を挙げる、おろす ・リアクション ・チャット ・チャットの保存／保存先の確認 ・ポップアップから固定表示 ・ノイズについて(暖房器具など) ・画面共有(ホワイトボード/PDF/音声/動画) ・画面共有後のサイズ変更 ・画面共有にコメントをつける／消す ・自分の手元を映す／学習者の手元を見る ・ピン止め ・著作権について 	中川美保	補助者：有田玲子
15	令和3年2月12日(金) 19:00~21:00	2	オンライン	5	日本語支援に必要なZOOMの基本操作ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・1週目の復習 ・手を挙げる、おろす ・リアクション ・チャット ・チャットの保存／保存先の確認 ・URLをチャットに送る ・ファイルを送る ・ポップアップから固定表示 ・画面共有(ホワイトボード/PDF/音声/動画) ・画面共有後のサイズ変更 ・画面共有にコメントをつける／消す ・自分の手元を映す／学習者の手元を見る ・ピン止め 	有田玲子	補助者：中川美保
16	令和3年2月15日(月) 10:00~12:00	2	オンライン	23	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	<ol style="list-style-type: none"> 1. サイトの概要：開発の経緯・サイトの構成 2. 学習者体験：レベル1-2 身近なものを買ってみよう 動画視聴,フレーズ練習,ロールプレイ 3. 支援者体験：レベル1-2 レストランへ行ってみよう 動画視聴,フレーズ練習,ロールプレイ 4. ふりかえり：感想やアイデアの共有 5. 質疑応答 	西山陽子 有田玲子	なし
17	令和3年2月15日(月) 19:00~21:00	2	オンライン	24	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	<ol style="list-style-type: none"> 1. サイトの概要：開発の経緯・サイトの構成 2. 学習者体験：レベル1-2 身近なものを買ってみよう 動画視聴,フレーズ練習,ロールプレイ 3. 支援者体験：レベル1-2 レストランへ行ってみよう 動画視聴,フレーズ練習,ロールプレイ 4. ふりかえり：感想やアイデアの共有 5. 質疑応答 	有田玲子 西山陽子	なし
18	令和3年2月16日(火) 10:00~12:00	2	オンライン	19	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	<ol style="list-style-type: none"> 1. サイトの概要：開発の経緯・サイトの構成 2. 学習者体験：L2-1-2、L3-1-3 切り取り場面を使って、QA,再話 3. 支援者体験：L1-3-3、L1-5-2 動画の内容と、動画に関連する個人のことに ついて、QA作り 4. ふりかえり：感想やアイデアの共有 5. 質疑応答 	有田玲子 中川美保	なし

19	令和3年2月16日 (火) 19:00~21:00	2	オンライン	29	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	1. サイトの概要:開発の経緯・サイトの構成 2. 学習者体験 :L2-1-2、L3-1-3 切り取り場面を使って、QA,再話 3. 支援者体験 :L1-3-3,L1-5-2 動画の内容と、動画に関連する個人のことについて、QA作り 4. ふりかえり :感想やアイデアの共有 5. 質疑応答	中川美保 有田玲子	なし
20	令和3年2月18日 (木) 10:00~12:00	2	オンライン	24	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	一オンラインでも楽しく使ってみませんかー地域で学ぶ入門期からの日本語学習教材「きいてまねしてはなして」ってどんな教材?使い方のコツは?	日本語教育支援グループ 「ことのは」 榎原智子 安田乙世	補助者:有田玲子
21	令和3年2月18日 (木) 19:00~21:00	2	オンライン	25	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	一オンラインでも楽しく使ってみませんかー地域で学ぶ入門期からの日本語学習教材「きいてまねしてはなして」ってどんな教材?使い方のコツは?	日本語教育支援グループ 「ことのは」 榎原智子 安田乙世	補助者:有田玲子
22	令和3年2月19日 (金) 10:00~12:00	2	オンライン	27	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	「NHK WORLD-JAPAN」の教材を使ってみよう ①NHKワールドジャパンの説明 ②日本語教育番組の概要 ③やさしい日本語の歴史と説明・模擬授業 ④やさしい日本語の反響・事例 ⑤よもやま話 ⑥しごとの日本語紹介 ⑦やさしい日本語で今週の日本紹介	NHK 植田彩子他	補助者:中川美保
23	令和3年2月19日 (金) 19:00~21:00	2	オンライン	29	学習者の立場で教材を体験してみる+支援者の立場で教材を使ってみる	「NHK WORLD-JAPAN」の教材を使ってみよう ①NHKワールドジャパンの説明 ②日本語教育番組の概要 ③やさしい日本語の歴史と説明・模擬授業 ④やさしい日本語の反響・事例 ⑤よもやま話 ⑥しごとの日本語紹介 ⑦やさしい日本語で今週の日本紹介	NHK 植田彩子他	補助者:中川美保
24	令和3年2月22日 (月) 10:00~12:00	2	オンライン	19	Zoomであれこれやってみる、あれこそ考えてみる	「オンラインで防災*ワークショップ」体験+話し合い ①さぼうとにじゅうちでの防災ワークショップの説明 ②NPO法人「プラス・アーツ」小倉様防災ワークショップ ③ワークショップ振り返りとハザードマップ確認体験 ④自宅での避難を想定した自宅の防災グッズ・安全性の確認 ⑤質疑応答	小倉丈佳 神村みどり	補助者:有田玲子
25	令和3年2月22日 (月) 19:00~21:00	2	オンライン	17	Zoomであれこれやってみる、あれこそ考えてみる	「オンラインで防災*ワークショップ」体験+話し合い ①さぼうとにじゅうちでの防災ワークショップの説明 ②NPO法人「プラス・アーツ」小倉様防災ワークショップ ③ワークショップ振り返りとハザードマップ確認体験 ④自宅での避難を想定した自宅の防災グッズ・安全性の確認 ⑤質疑応答	小倉丈佳 矢崎理恵	補助者:山本佳奈
26	令和3年2月24日 (木) 10:00-12:00	2	オンライン	17	Zoomであれこれやってみる、あれこそ考えてみる	「オンラインで料理*ワークショップ」体験+話し合い ①さぼうとにじゅうちでの料理ワークショップの説明 ②講師によるワークショップ ③ワークショップ振り返り	植木千津 矢崎理恵	補助者:神村みどり
27	令和3年2月24日 (木) 19:00-21:00	2	オンライン	10	Zoomであれこれやってみる、あれこそ考えてみる	「オンラインで料理*ワークショップ」体験+話し合い ①さぼうとにじゅうちでの料理ワークショップの説明 ②講師によるワークショップ ③ワークショップ振り返り	植木千津 矢崎理恵	補助者:有田玲子

28	令和3年2月25日 (木) 19:00~21:00	2	オンライン	12	Zoomであれこれやってみる、あれこそ考えてみる	オンライン体験からみんなで考えよう！ ①ツールを使った活動の紹介&体験 Padlet Vocaroo Google ドキュメント	西山陽子 有田玲子	なし
29	令和3年2月26日 (金) 19:00~21:00	2	オンライン	14	Zoomであれこれやってみる、あれこそ考えてみる	オンライン体験からみんなで考えよう！ ②実践紹介 1. 実践紹介～教室A(『いろどり』を使って みて) 2. 実践紹介～教室B(『ひろがる』を使って みて)	中川美保 有田玲子	なし
30	令和3年3月1日 (月) 10:00~12:00	2	オンライン	11	出張講座 東久留米地域で活動中の日本語学習支援者向けにオンライン日本語支援、防災等ワークショップの実践例紹介	自己紹介 ギャラリービュー スピーカービュー マイクオフ・オン 名前の変更 チャットの使い方 全画面表示 Escの使い方 アプリケーションを入れる場合と入れない場合について 画面の大きさの変更 参加者からの質問対応	有田玲子 西山陽子	なし
31	令和3年3月3日 (水) 19:00~21:00	2	オンライン	11	出張講座 東久留米地域で活動中の日本語学習支援者向けにオンライン日本語支援、防災等ワークショップの実践例紹介	名前の変更 チャットの保存 画面共有 ★「つなひろ」の紹介、体験 ー概要・構成紹介 ー学習者体験（リピート） ★「防災ワークショップ」の紹介	有田玲子 中川美保	なし
32	令和3年3月8日 (月) 19:00-21:00	2	オンライン	15	出張講座 江東区地域で活動中の日本語学習支援者向けにオンライン日本語支援、防災等ワークショップの実践例紹介	ブレイクアウトルーム体験：自己紹介 ギャラリービュー スピーカービュー マイクオフ・オン 名前の変更 リアクションボタン チャットの使い方 全画面表示 Escの使い方 アプリケーション 他 参加者からの質問対応	有田玲子 西山陽子	なし
33	令和3年3月10日 (水) 17:00-19:00	2	オンライン	15	オンライン日本語支援の「ホスト役」を経験してみよう	画面共有 アプリのダウンロード確認 アカウントの確認 アップデート方法 ミーティングの予約 ミーティング情報の確認 メールにミーティング情報コピペ さばうと21スタッフを自分のミーティングへ招待する	有田玲子	補助者：山本佳奈
34	令和3年3月11日 (水) 13:00-15:00	2	オンライン	7	出張講座 多摩市地域で活動中の日本語学習支援者向けにオンライン日本語支援、防災等ワークショップの実践例紹介	名前変更 チャット/保存+チャットを使った練習 スピーカービュー、ギャラリービュー ピン止め、ピン削除 困ったらESC ホワイトボード 画面共有、音声共有 *『いろどり』紹介 *『ひろがる』紹介	中川美保	補助者：山本佳奈
35	令和3年3月12日 (金) 13:00-15:00	2	オンライン	6	出張講座 多摩市地域で活動中の日本語学習支援者向けにオンライン日本語支援、防災等ワークショップの実践例紹介	*つながるひろがるにほんごでのくらし ー開発経緯・構成紹介 ー学習者体験 リピート/シャドーイング/アフレコ ブレイクアウトルームに分かれて、画面共有 +リピート・シャドーイング練習 ーその他活用方法紹介 キャプチャーで再話 *「防災ワークショップ」の紹介	有田玲子 中川美保	なし

36	令和3年3月15日 (月) 13:00-15:00	2	オンライン	11	出張講座 江東区地域で活動中の日本語学習支援者向けにオンライン日本語支援、防災等ワークショップの実践例紹介	* つながるひろがるにほんごでのくらし - 開発経緯・構成紹介 - 学習者体験 リピート/シャドーイング/アフレコ ブレイクアウトルームに分かれて、画面共有+リピート・シャドーイング練習 - その他活用方法紹介 キャプチャーで再話 * 「防災ワークショップ」の紹介	有田玲子 中川美保	なし
37	令和3年3月15日 (月) 18:00-20:00	2	オンライン	8	出張講座 福島県田村市他国際交流協会関係者向けに、防災ワークショップの実践例紹介	「オンラインで防災 * ワークショップ」体験+話し合い ① さぼうとにじゅうちでの防災ワークショップの説明 ② 防災ワークショップ ③ ワークショップ振り返りとハザードマップ確認体験 ④ 自宅での避難を想定した自宅の防災グッズ・安全性の確認 ⑤ 質疑応答、意見交換	小倉丈佳 矢崎理恵	なし
計		74		473				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第34回 令和3年3月11日】

【テーマ】: オンライン出張講座「オンライン学習のスキルアップ+日本語学習支援のスキルアップ」

【講師】: 中川美保(日本語教師)

【参加者】: 東京都多摩市地域の教室で活動中の日本語学習支援者7名(2月に実施した講座に参加した方が地域で募った受講希望者)

【内容】:

① ZOOMを利用したオンライン日本語学習支援に必要なスキルを習得する

名前変更

チャット/保存+チャットを使った練習

スピーカービュー、ギャラリービュー

ピン止め、ピン削除

困ったらESC

ホワイトボード

画面共有、音声共有

② オンラインで使いやすい日本語学習教材の紹介

* 『いろどり』紹介

* 「つながるひとがる にほんごでのくらし」紹介

【実施方法】: ZOOMを用いたオンライン形式

※コーディネーター所感

・出張講座では、参加者のオンライン学習に関するスキルが事前に分からないため、講師の負担は大きいものであるが、1か月間を通して、様々なレベル、スキルへの対応を講師側が経験していたことから、資料も相応に準備されており、有意義な2時間となっていた
・地域ごとに日本語学習支援者のタイプも異なり、必要としているスキルや教材も違うことを実感した。様々な地域で活動する方々の交流の場が、オンライン上で作られれば良い刺激にもなり、それぞれの地域の教室の課題を解決するに有効であろう。



↑ オンライン学習支援の講義は講師2名体制で実施



↑ ZOOMの使い方マニュアルは参加者全員に事前配

○取組事例②

【第37回 令和3年3月15日】

【テーマ】:オンライン出張講座「防災ワークショップを体験して考えよう」

【講師】:小倉文佳・矢崎理恵

【参加者】:福島県田村市他国際交流協会スタッフ知人等8名(2月に実施した講座に参加した方が自身のネットワークで募った受講希望者)

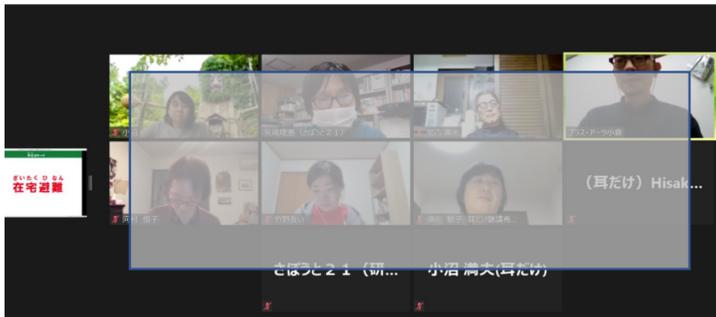
【内容】:「オンラインで防災*ワークショップ」体験+話し合い

- ①さぼうとにじゅうちでの防災ワークショップの説明
- ②防災ワークショップ
- ③ワークショップ振り返りとハザードマップ確認体験
- ④自宅での避難を想定した自宅の防災グッズ・安全性の確認
- ⑤質疑応答、意見交換

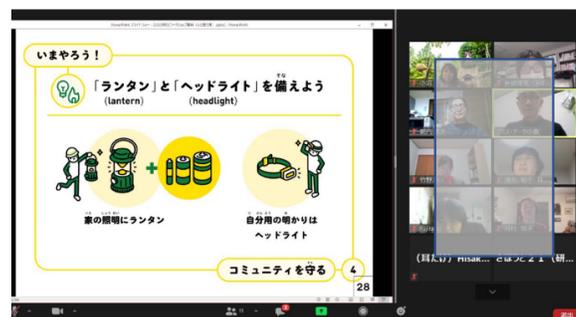
※コーディネーター所感

・1か月にわたるオンライン日本語学習支援の講座の中で「防災」のワークショップを取り入れ、周知を図ったが、その成果として、地方の国際交流協会の職員の方が、自身のネットワークの中で講座実施を希望してくださった。結果的には、他の国際交流協会の方々も積極的に参加してくださり、また、福島からの参加者の方は東日本大震災の頃の経験などを共有して下さり、非常に有意義な講座実施となった

・地域を超えて、皆が集えるオンラインの利点の有効性を実感する講座となった



↑ 学習者向けに実施した講座を国際交流協会の職員等に向けて



↑ 防災紙芝居も利用しながら

(2) 目標の達成状況・成果

・出張型講座の実施により、同じ教室(または地域)で活動をする日本語学習支援者同士が共に学び、考えあう機会を得ると同時に、「地域日本語教室を外国人住民の防災学習の拠点に」という本事業への理解者、協力者を増やすこと
→1か月におよぶ「オンラインスキルアップ講座」と称した研修により、多くの参加者を得て、「防災」ワークショップも体験していただけたことは一つの大きな成果であった。参加者実数138名、のべ473名が参加する講座となった。「オンラインスキルアップ講座」は同じ教室の支援者が共に学ぶ場ではなく、異なる地域で活動する支援者が共に学ぶ場であり、日ごろ他地域とつながることの少ない地域日本語教室の支援者から高い評価を得た。また、そこに参加した方々が、同種の講座をぜひ自身の活動地域の仲間と共に受講し、学びを深めたいと積極的に申し出てくださり、有意義な「オンライン出張講座」へと展開させることができた。

講師への感謝の言葉を述べる参加者が多く、現場をもち、支援者の方々のお困りごとにもよく理解してくださっている講師陣に講座を担当していただいたことも高評価の要因であった。

・活動休止を余儀なくされている地域日本語学習支援者が、オンライン学習支援のスキルを獲得すると共に、「防災」ワークショップを取り入れた日本語学習活動への理解を深める
→アンケート自由記述の中に「防災や料理など身近な話題を講師の方と自宅にいる学習者が直接やり取りでき、とてもアットホームな雰囲気だったと思います。自宅から参加できるオンライン講習の良さを実感しました。」「講師の先生が「オンライン形式」で講義をされるメリット(家の防災グッズを探して持ち出せる、参加者に見せられる)を打ち出してくださったので、前向きに受講することができました。」など、ある程度、目標は達成できていると評価する

(3) 今後の改善点について

・オンライン出張ワークショップは、初めて実施したため、その進め方について再度検討し、より多くの方に「地域日本語教室」と「防災」を結び付けて考えていただけるような工夫をこらしていきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

【目的】

本事業の目的は、地域日本語教室を難民等外国人住民の「防災」日本語学習の拠点として位置づけ、「防災」に関する日本語学習をきっかけに、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等をつないだ日本語教育のネットワークの構築を進めていくことである。自助共助の意識を強くもった外国人住民・日本人住民が地域日本語教室で共に育っていくことを期待している。

【今年度の目標】

- 令和元年度に作成した「本気で防災を学ぶ紙芝居型日本語教材」(以下「本気で防災日本語紙芝居」)の追加作成、普及を進める
- 教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた地域日本語教室のモデルを提示する
- 「防災」を教室活動に積極的に取り入れる意識をもった「担い手」を育成する
- 「防災-外国人住民-日本語-日本語教室」の重要性を認識し、そのような視点から「地域日本語教室」の有用性を理解する人を増やす
- 「本気で防災日本語紙芝居」の普及活動を通じて、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等のネットワークの構築を進める

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- 令和元年度に作成した「本気で防災を学ぶ紙芝居型日本語教材」(以下「本気で防災日本語紙芝居」)の追加作成、普及を進める
→追加作成を終了し、2年間で完成させた「本気で防災日本語紙芝居」を整理し、ホームページにも掲載した。
- 教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた地域日本語教室のモデルを提示する
→オンライン化での日本語教室実施を余儀なくされた状況の中、オンラインの利点を活かした教室の形が提示できた。とくにワークショップ形式の防災学習については、オンライン/出張型活動基礎講座を通じて広く周知することができた
- 「防災」を教室活動に積極的に取り入れる意識をもった「担い手」を育成する
- 「防災-外国人住民-日本語-日本語教室」の重要性を認識し、そのような視点から「地域日本語教室」の有用性を理解する人を増やす
→「活動基礎講座」参加が、オンライン化により、より広範囲から可能になり、「担い手」を広く募ることができるようになった
- 「本気で防災日本語紙芝居」の普及活動を通じて、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等のネットワークの構築を進める
→令和2年度は、全ての講座がオンライン化され、戸惑いも大きかったが、「活動基礎講座」「オンライン/出張型活動基礎講座」の実施により、結果的には様々な立場で外国人と関わる方々との連携が可能となった

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

地域の関係者とは、主に「オンライン/出張型活動基礎講座」の実施により、連携を進めることができた。以前から、当団体が「コンテンツ」提供をし、講座の運営を各地域の関係者で行う形で、「本気で防災日本語紙芝居」「防災ワークショップ」「防災を取り入れた日本語教室活動」を広く周知できないかと考えていたが、令和2年度は、諸々の取組がオンライン化されたことにより期待以上に連携が進むこととなった。
①教室活動の見学が簡単にできるようになった ②教室活動の録画が簡単にできるようになった ③広い地域から講座参加が可能となった ④これまで講座実施が難しかった夜間等に講座が行えるようになった ⑤オンライン利用の必要性を強く感じていた日本語学習支援者が数多く現れ、地域を超えた他団体との活動に積極的に参加できるようになった などが理由としてあげられる

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

令和2年度事業は、全ての事業がオンライン化され、紙媒体での周知・広報は有効なものではなくなった。そんな中で、当団体の活動に参加している方々、研修等の過去受講者への電子メールでの案内が有効に機能した。一般にはオンラインでの申し込みの場合は、当日の急なキャンセル等がある程度見込んで受け付けるのではないかとと思われるが、対面でのやりとりがあった方々の場合は、オンラインであっても急なキャンセルはあまり生じなかった。
広報のタイミング、メールや電話での適切なフォロー、関連資料の共有の按配などに配慮し、一度つながりができた方々と継続した関係を保っていくことが、周知・広報には有効だろうと考えている。
また、令和2年度は、これまで文化庁事業で作成した教材を、当団体のホームページに掲載することができた。遅ればせながらスタートさせた当団体のフェイスブックも活用しながら、関わる人々を通じて、成果の発信を続けていきたい。

(5) 改善点、今後の課題について

「地域日本語教育実践プログラム(B)」は、(1)関係機関等の連携・協力を推進する検討体制の整備、(2)地方公共団体や各種団体等多様な機関と連携・協力し実施する、外国人が参加しやすくなる又は参加しやすいテーマに関する日本語教育の実施(60時間以上)、(3)取組の成果の発信及び住民の日本語教育への理解の促進、(4)上記にかかる人材の育成等が期待されるプログラムである。オンライン化により、より広範囲の方々とつながりやすい状況にあるが、最近は様々なオンライン講座が飛び交う状況となっており、取組の特徴をはっきりと示し、広報を進めていかなければならないだろう。また、数多くいただいている講座への感想や要望に誠実に対応していくことも必要だろう。また、当団体は難民への日本語教育を行う団体であり、同種の活動を行う団体との連携を強めていくことにも注力したい。

(6) その他参考資料

- ・チラシ(オンラインスキルアップ講座)
- ・チラシ(ワークショップ①-防災～自宅での避難)
- ・チラシ(ワークショップ②-防災～避難のための備え)
- ・チラシ(ワークショップ-安全セミナー)
- ・チラシ(活動基礎講座-秋冬の回)
- ・チラシ(活動基礎講座-春夏の回)